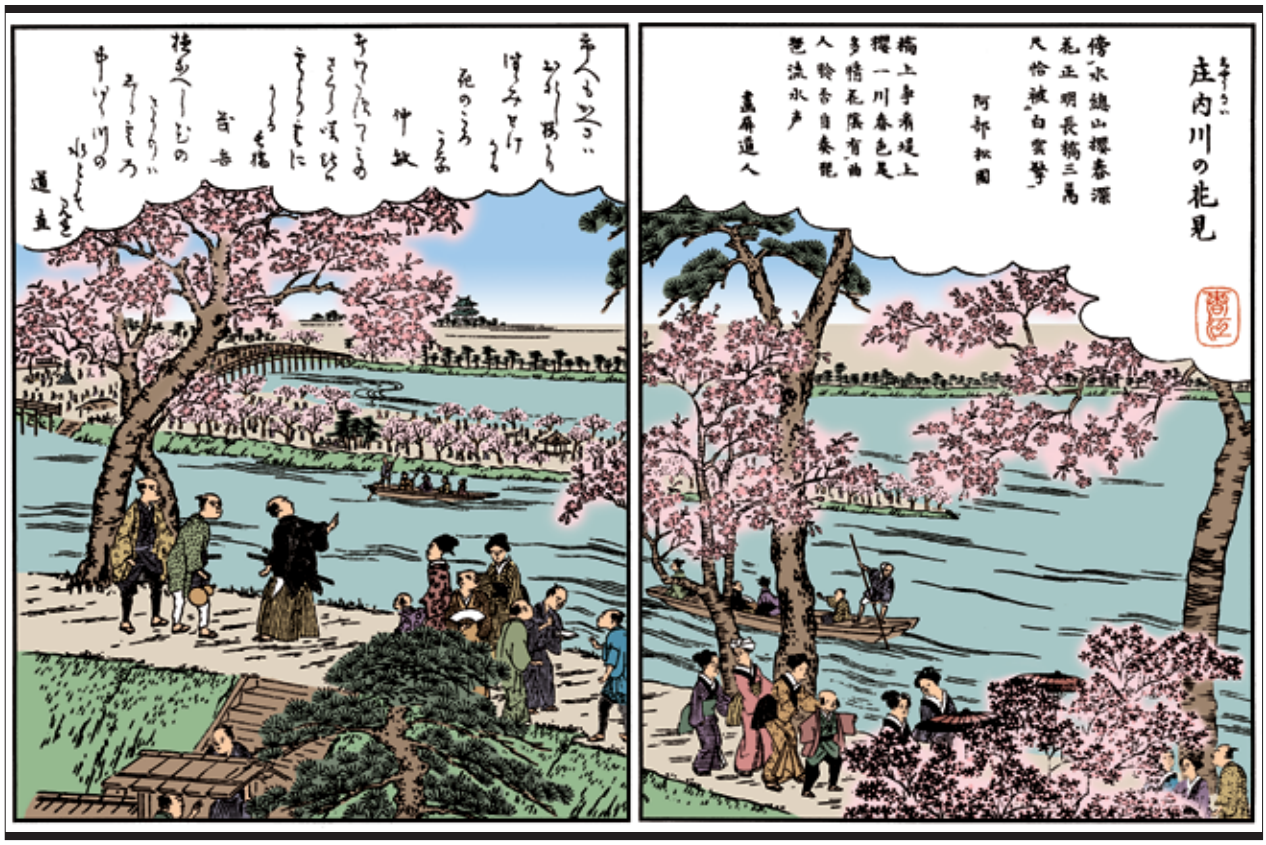
なごやのまち 今昔

尾張名所図会 **庄内川の花見**

名古屋市西区東枇杷島町、清須市西枇杷島町

花見と共に文化をひろめた桜の名所



※現在地の住所と現況写真の撮影地は、資料に基づき推定したものです。
※左の絵は原本を一部加工、着色しています。

この絵は、尾張名所図会に記載されている江戸時代の庄内川の花見の様子です。

図会は、庄内川右岸から、城下を望むものでかなたにお城、中島をはさみ二本の橋が架けられていることから枇杷島橋下流と考えられます。

江戸時代の春を彩る花は、桃、梅、桜、つつじなどもあり、娯楽が少ない江戸時代の人々を目を楽しませていました。現代の花見と言えば桜のイメージとは違っていたようです。

この図会の花見の対象となっているは、桜です。この桜は、景観を良くするため(藩の命令によって)弘化2年(1845年)川の両堤に数千株植えられました。植えられた桜は、彼岸桜、いと桜、山桜、八重桜など多くの種類があり長い期間、楽しむことができました。

図会には、風雅な人や物見遊山の人々が川面や堤に訪れ桜を楽しんでいる様子がうかがわれます。花見の賑わいの様子を

市人もかへさばおなじ桜かりつつみせげなるはなのころかなと

詠われています。

当時、庄内川堤は、城下の桜の名所で堀川日置橋付近に次ぐと言われていました。このほか、当時の桜の名所としては、桜天神、西本願寺、八事天道高照寺などがありました。

現在は、このあたりの堤防には桜の姿は見受けられず当時の賑わいは感じることはできません。

お城の方向を望む

桜並木のあったと思われる堤防

◆**関連資料**　※(　)内はまちづくりライブラリーの請求記号です

「尾張名所図会後編三」岡田啓・野口道直／著愛知県郷土資料刊行会) (Sc-ア)

「名古屋市史第四巻」新修名古屋市史編纂委員会／編名古屋市(Sc-ア)

「西枇杷島町史」西枇杷島町史編纂委員会／編西枇杷島町(2040-41-64)

「名古屋叢書三編第十三巻天保會記鈔本」名古屋蓬左文庫/編名古屋市教育委員会(Sc-ナ)